

福井市日新小学校

科学を楽しむ子どもの育成

～地域や校地の教育資源をDX(デジタルトランスフォーメーション)で活用する理科学習～



JR福井駅前の恐竜モニュメント 提供:福井県観光連盟

ICTを存分に活用した新たな学び

従来の学習手法とICTを融合

福井大学や県立美術館にもほど近い文京地区に位置する福井市日新小学校では、福井県の「先端技術活用研究」に指定されたことやGIGAスクール構想に基づく1人1台のタブレット端末貸与などを機に、2021年度から教育DXの取り組みを本格化している。

宇野秀夫校長は「タブレットに詳しい児童が教え合ったりすることで、筆記用具と同じような学びのツールとして活用できています」と話す。その活用方法も単に画像や動画を撮るだけではない。たとえば、4年の「植物の成長」では、従来どおりの手描きスケッチに加えて画像を撮影する。それにより「春先の様子はどうだったかなど、スケッチと画像で振り返ることにより反復的な学びが可能」(宇野校長)となっている。



活動メンバーで成果発表会の準備



福良の浜の地層観察会(6年)



九頭竜川観察会(5年)

広がる「教育DX」の可能性

また、九頭竜川の観察(5年)や福良の浜の地層観察(6年)といった野外学習の成果などではタブレットを用いたプレゼン発表を行っており、5年担任の田崎優太教諭は「強調したい部分を拡大表示するなど、タブレットを使いこなしています」と言う。

さらに、こうした従来の学びとICTの融合以外にも、教育DXの可能性は広がっている。担当の河村隆義教諭は「特にサーモカメラを用いた『物のあたたまり方』の授業では、子どもたちの食いつき方が違いました。『もっと色んなものを見たい!』と、興味をかき立てられたようです」と話す。

このほかにも、プレゼン発表をデータベース化して、ほかの児童や次年度以降の後輩も閲覧できるようにするなど、ICTの利点を存分に活用している。それでも、宇野校長は「さらに“この先”の活用法を模索中です」とまだまだ意欲的で、さらなる教育DXの広がりに期待が高まる。(個別助成)



校内の樹木のネームプレートつけ(4年)



成果発表会で日頃の活動を小中高校生、教員に説明

●実施担当

河村隆義 教諭

●活動のモットー

実体験は、授業での疑似的体験にはない感動を伴う。そのため、子どもたちがなるべく直接自然に触れ合えるよう心がけている。



「科学を楽しむ子どもの育成～理科学的な見方や考え方はたらかせて、問題を解決する理科学習～」を理科の教育目標とする公立校。

設立:1976年

生徒数:244人

所在地:福井市文京5-25-30

学校概要

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

